

こども

# 子供のインターネットバイブル

あんない

案内いたします

アブラハムの<sup>あ い</sup>愛をた  
めされた<sup>か み</sup>神さま



ぶん

文: Edward Hughes

え

絵: Byron Unger; Lazarus; Alastair P.

かいさくしゃ

改作者: M. Maillot; Tammy S.

ほんやくしゃ

翻訳者: Yuko Kajiki

監修者: Dan Ellrick

しゅっぱんしゃ

出版社: Bible for Children

[www.M1914.org](http://www.M1914.org)

BFC

PO Box 3

Winnipeg, MB R3C 2G1

Canada

©2022 Bible for Children, Inc.

許可: 他人に売らない限り このお話のコピー、又はプリントは、許可されています。





ある<sup>よる</sup>夜<sup>かみ</sup>のことです。神<sup>かみ</sup>さまは、アブ  
ラハムにとても<sup>へん</sup>変<sup>かみ</sup>なめいれいをされ  
ましたよ。それはね、アブラハム  
が、神<sup>かみ</sup>さまよりもっと<sup>かれ</sup>彼のむすこイ  
サクの<sup>ほう</sup>方<sup>あい</sup>を愛<sup>かみ</sup>しているのかどうか  
を、ためすことでした。



「あなたのむすこ、イサクをつれて<sup>い</sup>行きなさい。そ  
してイサクを<sup>や</sup>焼いて、いけにえとしてささげなさい。  
い。」<sup>かみ</sup>神さまは、このようにめいれいされたので  
す。えっ？イサクをささげるって？  
かれのむすこを、いけにえにする  
って？それは、アブラハムにとっ  
て、<sup>ほんとう</sup>本当につらいことでした。  
アブラハムは、<sup>じぶん</sup>自分のむすこイサ  
クを<sup>あい</sup>こころから愛してい  
たからです。



けれども、アブラハムは、<sup>かみ</sup>神さまの<sup>い</sup>言われることが、たとえよくわからなかったとしても、ただ<sup>かみ</sup>神を<sup>しん</sup>信じることをよくしていました。<sup>あさ</sup>朝のうちに、いけにえのイサクをつれ、<sup>ふたり</sup>二人の<sup>わかもの</sup>若者と<sup>やま</sup>いっしょに、<sup>で</sup>山へ出かけていきました。



で まえ や  
出かける前、アブラハムは、焼いて  
いけにえをささげるための火をおこ  
すたきぎを、用意しました。アブラ  
ハムは、ただ神さまにしたがうしか  
ないとおもいました。



みっか

やま ちか

三日<sup>みっか</sup>たって、さあ、山<sup>やま</sup>に近づいてきました

わかもの

よ。「ここにいなさい。」アブラハムは、若者<sup>わかもの</sup>

たちに<sup>い</sup>言いました。「わたしたちは、むこうへ行っ

れいはい

て礼拝<sup>れいはい</sup>します。ここにまたもどってきま  
すからね。」イサクは、たきぎ  
をはこびました。



アブラハムは、火<sup>ひ</sup>と  
刀<sup>かたな</sup>をもちました。



とう や ひつじ  
「ねえ、お父さん、焼いていけにえにする羊  
は、いったいどこにいるの？」イサクはききま  
かみ ひつじ  
した。「神さまが、ちゃんとじぶんで羊をよ  
ういしてくださっているんだよ。」アブラハム  
がこたえました。



ふたり

かみ

二人は、神さまがちょうどえらばれたところへ、やってきました。

そこで、アブラハムは祭だんをきずき、神さまのかみ前まえにささげるいけ

にえを燃もやすためのたきぎをくみたてました。アブ

ラハムは、いままでたくさんの祭だんをきずいて

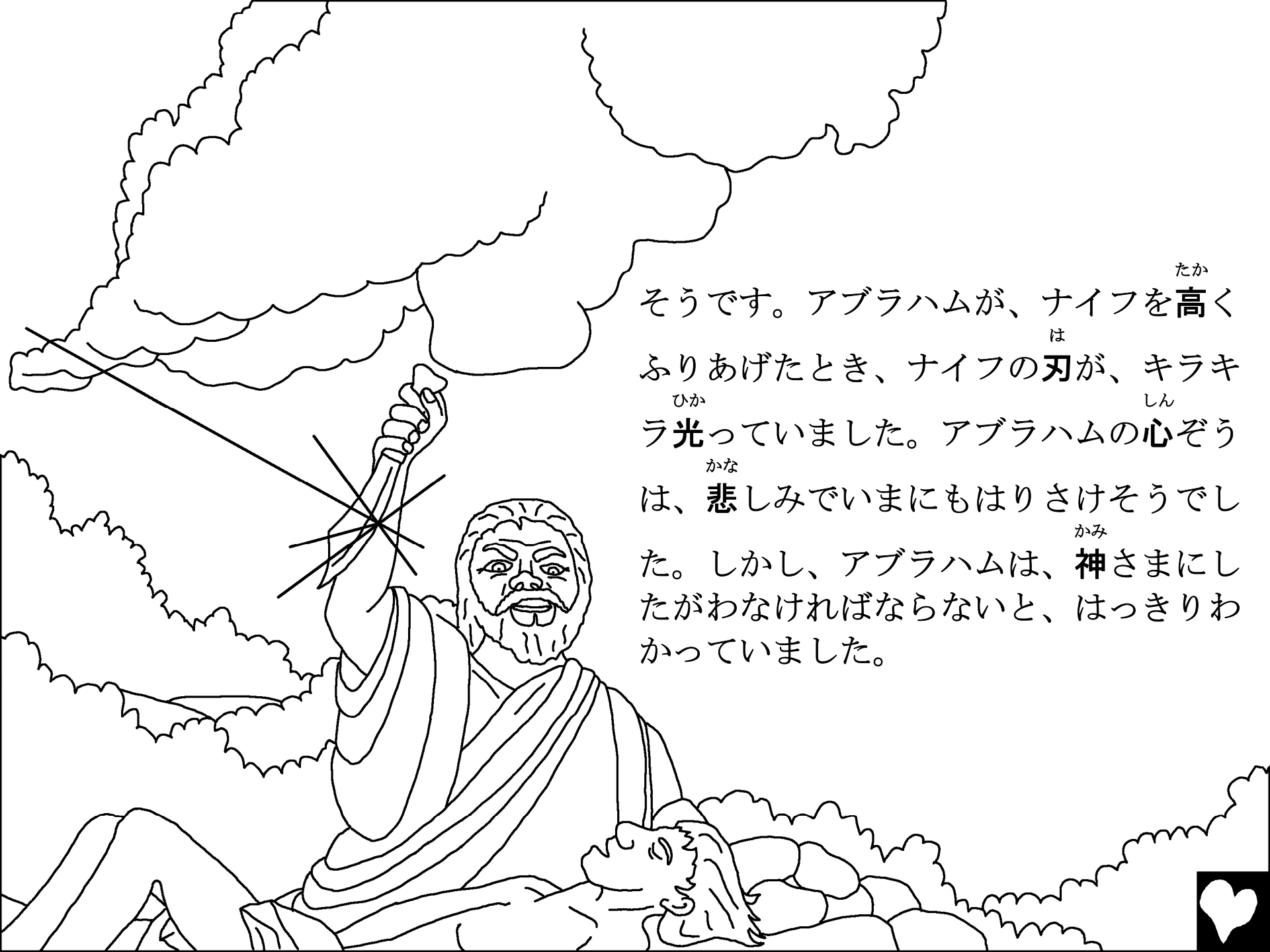
きました。でもきつと、この祭だんづくりほ

ど、苦くるしいものものはなかったでしょう。



アブラハムは、かわいいかわいいむすこイサクをしばりあげ、<sup>さい</sup>祭だんの上に  
おいたのです。アブラハムは、ほんとうに<sup>かみ</sup>神さまの<sup>い</sup>言われるとおりに、  
<sup>こころ</sup>心から<sup>あい</sup>愛するたった一人の<sup>ひとり</sup>むすこを、  
いけにえにするつもりだったのでしょうか？





そうです。アブラハムが、ナイフを高く  
ふりあげたとき、ナイフの刃が、キラキ  
ラ光っていました。アブラハムの心ぞう  
は、悲しみでいまにもはりさけそうでした。  
しかし、アブラハムは、神さまにしたがわなければならないと、はっきりわか  
っていました。





「やめなさい。！」

しゅ

主のつかいがさけび  
ました。「アブラハ

しゅ

ムよ、いま、あなたが主を  
おそれていることが、はっ  
きりわかった。あなたは、

じぶん

自分のむすこ、たった  
ひとり

一人のかわいい

むすこさえ、わたし  
のためにおしま  
なかつた。」



ふと、<sup>き</sup>木の<sup>ほう</sup>しげみの<sup>いっ</sup>方<sup>ひっじ</sup>を見ると、一匹きの羊がいる  
ではありませんか。アブラハムは、イサクのなわを

ほどき、かわりに<sup>ひっじ</sup>羊をいけにえにしましたよ。

ぶん、イサクは<sup>おも</sup>思<sup>かみ</sup>ったでしょう。「神さま

は、ちゃんとなにも<sup>ようい</sup>かも用意<sup>とう</sup>してしてくだ  
さるのだ。ちょうど、<sup>はな</sup>ぼくのお父<sup>はな</sup>さんが話  
してくれたようにね」。





げんき いえ

こうして、アブラハムとイサクは、**元気**に**家**にもどってきましたよ。それから

なんねん **何年**かたって、とても**悲**しいことがおこりました。サラが**亡**くなってしま

ったのです。アブラハムはつまを、そしてイサクはお**母**さんを**亡**く  
してしまいました。



サラのおそうしきのあと、アブ  
ラハムは、しもべの<sup>ちょう</sup>長にイサクの  
およめさんになる人<sup>ひと</sup>を、さがしに行か

せました。そのしもべは、アブラハムのしんせきの<sup>なか</sup>中か  
ら、イサクのおよめさんをさがそうと、アブラハムの<sup>う</sup>生まれ  
たところへでかけました。



しもべは、「<sup>かみ</sup>神さま、どうぞしるしを<sup>み</sup>見せてください。」といのり、またこう<sup>い</sup>言いました。「わたしのつれてくるラクダにも<sup>みず</sup>水をくださる<sup>おんな</sup>女の人が、イサクのちよ  
うどぴったりのおよめさんになりますように。」すると、どうでしょう。しもべ  
が、こう<sup>いの</sup>祈りおわらないうちに、リベカがやってきて、ラクダたち<sup>みず</sup>に水をくんでや  
<sup>はじ</sup>り<sup>ひとり</sup>始めたではありませんか。リベカは、アブラハムのしんせきの<sup>かみ</sup>一人でした。神さ

まは、しもべの<sup>いの</sup>祈りをき  
いてくださり、

こたえてく  
ださったので  
すね。



リベカは、イサクとけっこんするため、お父<sup>とう</sup>さんやお母<sup>かあ</sup>さんのもとを、はなれました。そしてかのじよは、イサクのお母<sup>かあ</sup>さんが亡<sup>な</sup>くなったあと、イサクをやさしくなぐさめてあげました。イサクは、リベカが<sup>だいす</sup>大好きでしたよ。



あい かみ  
アブラハムの愛をためされた神さま

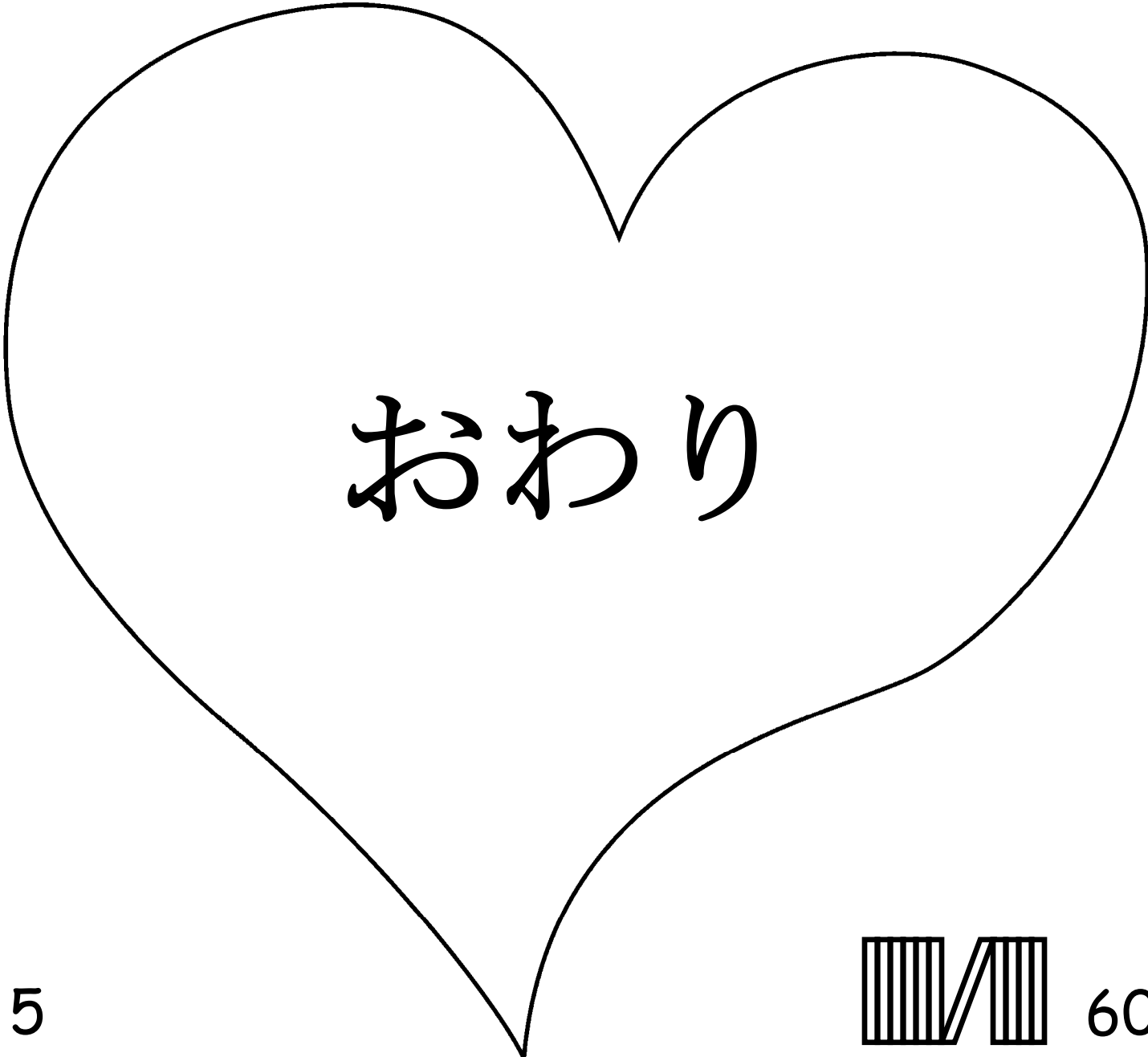
かみ み せいしよ しる  
神さまの御ことば、聖書に記されているおはなしです。

そうせいき しょう しょう  
創世記 22 章 -24 章

み ひら ひかり あた  
あなたの御ことばが開かれると、光が与えられます。

しへん  
詩篇 119:130

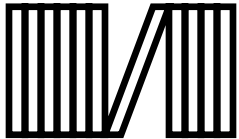




おわり



5



60



せいしょものがたり わたし かみ  
この聖書物語は、私たちをつくってくださったすばらしい神さまについて、  
おはなししています。神さまは、あなたが、神さまのことをしてほしいと、  
おも  
思っています。

かみ わたし かみ  
神さまは、私たちが、よくないことをしてしまったことを、していらっしやいます。それを、神さ  
まは、罪とよばれています。その罪のむくいは、死です。

かみ あい ひとり こ  
けれども、神さまは、あなたをととても愛していらっしやいますので、ただ一人のみ子イエスさまを、  
よ おく つみ じゅうじかじょう な  
この世に送ってくださいました。そしてあなたの罪のために、十字架上で亡くなられたのです。けれ  
どもそれから、イエスさまはよみがえられ、天国のいえへ、もどられたのですね。もし、あなたがイ  
エスさまを信じ、ゆるしてくださいとおねがいするなら、イエスさまは、ゆるしてくださいます！イ  
エスさまは、いま ところ き なか す  
エスさまは、今、あなたの所へ来て、あなたのこころの中に住んでくださいます。そして、いつまで  
もイエスさまといっしょに生きることが出来ますよ。

もし、あなたが、これがほんとうだと信じるなら、神さまにこう言ってください。  
あい かみ わたし かみ しん ひと わたし つみ な  
愛する神さま、私は、あなたが神さまと信じます。あなたは人となり、私たちの罪のために亡くなっ  
てくださいました。そして、よみがえって、いま生きて  
いらっしやいます。どうか、私のこころの中に来て、罪をゆるしてください。それで、私は今、あた  
らしい命をいただけます。そして、いつか、あなたの所へ行き、いつまでもあなたといっしょにいる  
ことができるのです。あなたにしたがえますよう、あなたの子として生きることが出来ますよう、た  
すけてください。アーメン

せいしょ かみ ふくいんしょ  
まいにち、聖書をよみ、神さまとおはなししましょう！ ヨハネによる福音書3：16

